会員の広場

医学教育センター長就任のご挨拶

大阪医科大学医学教育センター長　専門教授　寺﨑　文生

2018年6月1日付けで、河田了先生の後任として大阪医科大学医学教育センター長に就任致しました。

医学教育センターは2003年（平成15年）に設置され、医学教育の企画と実行を使命としています。教育プログラムの作成、学生の教育効果の測定、教員の能力向上、教育に関する評価、教育に関する研究の推進などの事項を審議して実施しています。医学教育センターには、カリキュラム委員会、OSCE実行委員会、ITプロジェクト委員会などが設置され、大学の教育戦略会議、医学部教授会、IR（Institutional Research）室、カリキュラム評価委員会等との緊密な連携のもとに、本学の医学教育の充実、発展に向けて活動しています。

我が国において医学教育の重要性が認識され始めた歴史は比較的新しく、40年余りと思われます。その短期間に、先達の先生方が努力され主に欧米から教育理論や教育手法、情報を取り入れて応用することで、今日の目覚ましい進歩があります。私が医学生であった1970年代には、問題解決型授業（PBL）や客観的臨床能力学習（OSCE）といったものは影も形もありませんでした。卒後教育に関しても、我が国の研修医制度や専門医制度が、試行錯誤や見直しを繰り返しつつも、年々進展していることはご存じの通りです。

医学教育の環境は日々大きく変化を続けています。本学においては学修成果（アウトカム）基盤型教育への転換を目指し、アクティブ・ラーニングを導入して医学教育改革を推進しています。2017年の第1学年より開始された新カリキュラムでは、卒業時に求められる学修基準（コンピテンス/コンピテンシー）を設定し、それを達成するために、授業科目の水平的、垂直的な統合を行いました。また、6年間一環教育プログラムとして、医療プロフェッショナリズム、学生研究、国際言語文化交流などを設けました。これらについては、2018年4月に受審した日本医学教育評価機構（JACME）による「医学教育分野別評価」においても良い評価をいただきました。今後は新カリキュラムについて情報の収集と分析を行い、教育プログラムへのフィードバックを計画的かつ継続的に実行して、本学の医学教育の更なる発展に繋げることが求められます。また、看護学部、薬学部はもとより他の学際領域や海外との交流・単位互換などをさらに充実させることも重要と思われます。医学教育のグローバルスタンダードを保ちながら、本学に特徴的なプログラムの構築を目指します。

現在の、自然科学、分子生物学、基礎医学などの進歩は、再生医療などに見られるようにとてつもない速さであり、それに伴って医学生や医師が学ばねばならない知識や技術は膨大なものになってきております。一方、インターネットなど情報網の発達も著しく、何時でも誰でも一定の新しい情報を得られる時代です。医学・生物学領域だけにとらわれず、工学系・物理系など他の分野との交流も欠かせません。さらに、人工知能（Artificial Intelligence: AI）

時代の到来は明らかです。医学教育はこのような学術的、科学的状況に対応していかなければなりません。

しかし一方で、久しく指摘されているように、医師としての品格やコミュニケーション能力、患者様の心情と共感できる心を涵養することも医学教育の極めて重要な部分であると思います。「チーム医療」という言葉が使われて久しく社会における地位を獲得しています。医学教育の場においても、医師（教員）は言うまでもなく、看護師、薬剤師、臨床検査技師、その他、学務・事務部門など多職種のスタッフ、さらに、学生も含めて全員が大阪医科大学の教育理念を共有して医学教育の現場に参画し、優れた学生・医師を育てる教育環境を造ることが大切と考えています。ことに、学生自身が医学教育に参加することが医学生の自主性や自立心を高める上でも大切です。

大阪医科大学の教育目的は「豊かな人間性を備え、人類共通の課題である健康の維持増進並びに疾病の予防と克服及び苦痛の軽減に努める人材、変化する社会に対応し最新の知識と最良の技術を生涯学び続ける人材、及び地域医療から世界に通じる研究開発にわたる領域で探究心を持って活躍する人材を育成するための教育を実践すること」です。医学教育センターは、この理念に基づいて、「良医」を輩出すること、そのための教育環境を整備することを使命と考えて「医学教育」に取り組んで参ります。本学の教職員と学生が一緒になって最適な教育を実現することを目指して、一層活発にまた着実に活動していきたいと思います。医師会員の先生方には今後ともご支援、ご鞭撻を賜りますよう何卒宜しくお願い申し上げます。